



重症熱性血小板減少症候群(SFTS)による死亡患者の発生について

呉市内の医療機関から呉市保健所に、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の患者発生の届出(平成30年以降呉市で16例、死亡は2例)がありました。

SFTSはマダニを媒介とする感染症であり、感染源となるマダニは、春から秋にかけて活動が盛んになります。マダニに咬まれない予防策についてお知らせします。

また、特に暑くなる今の時期は、作業を控えたり、こまめに水分補給するなど、熱中症にも十分ご注意ください。

1 患者の概要

届出年月日：令和4年5月30日

住 所：呉市内

年齢・性別：80歳代男性

症 状：発熱、嘔吐、下痢、血小板減少、食欲不振

経 過：5月27日入院、6月4日死亡

そ の 他：農作業あり

(令和4年6月23日現在)

年	H30	R1	R2	R3	R4
発生患者数	3	1	4	4	4
うち死亡	0	0	0	1	1

2 感染予防対策

(1) 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)とは

SFTSウイルスと呼ばれる病原体を持ったマダニ類に刺咬されることによって感染する病気です。人から人へ感染して広がるものではありません。

マダニに咬まれて6日～2週間程度の潜伏期間後、主に発熱、消化器症状、時に頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、呼吸器症状、出血症状が出現します。

(2) 感染予防対策

マダニに咬まれないようにすることが重要です。

- ・ 長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、皮膚の露出を少なくする。

※ 暑い時期には、作業を控えるまたは水分を補給するなど、熱中症には十分ご注意ください。

- ・ 屋外活動後は、体や服をはたき、マダニに咬まれていないか確認する。
- ・ 吸血中のマダニに気がついた際、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿するなどの恐れがあるため、医療機関(皮膚科など)で処置をしてもらう。
- ・ マダニに咬まれた後に、発熱等の症状があった場合は、医療機関を受診する。